

大学生の市立図書館と大学図書館の 利用状況調査

A Survey on University Students' Usage of Public Library and University Library

大谷 杏, 神谷 達夫
Kyo Otani, Tatsuo Kamitani

要旨

本稿は、学生の市立図書館と大学の図書館(本学の場合、メディアセンターと称している)双方へのアクセス、利用状況、所蔵希望の資料に関する調査結果をまとめ、今後に向けた検討を加えたものである。結果から、学生が市立図書館を頻繁に利用できない理由として地理的な距離が考えられるが、一方でいずれの施設のあらゆる形態や分野において所蔵資料の充実を望んでいることも明らかになった。また、それぞれの施設に対して求める本や目的、利用時間も異なることから、両者が今後役割分担をし、双方の強みを生かすことが重要ではないかと考えられる。

キーワード: 市立図書館、大学図書館、資料、距離、頻度

Keywords: public library, university Library, resources, distance, frequency

1. はじめに

本稿は、学生の大学図書館と公立図書館の利用状況、図書館に期待する事柄の調査結果とその分析から、彼らの図書館利用の促進へ向けて必要とされることや双方の図書館の協力関係の在り方について検討するものである。

現在、大学の図書館には 8 万冊の図書と、30 種ほどの学術雑誌が所蔵され、通常期間であれば月曜から土曜の 9:00~18:00 まで開館している。また、公立大学という性質上、市内や近隣在住で教育・研究を目的とする 18 歳以上の人や高校生にも開かれており、施設の利用や図書の貸し出しが行われている。館内には、1 階に受付カウンター、セミナールーム、イベントスペース、PC 閲覧ラウンジ、書架ラウンジ、ソファなどを備えたブラウジングスペース、サイレンスエリア、2 階にミニシアター、録音・撮影スペース、DVD 等の視聴が可能な情報集約実習室、共同研究・研修室、生

涯学習室がある。また、1階に9席、2階に6席、3階に15席の電源コンセントの付いた自習用のキャレルデスクが備えられている⁽¹⁾。

2006年に福知山市が三和町、夜久野町、大江町を編入したことから、市立図書館には中央館、三和分館、夜久野分館、大江分館がある。一般書、児童書、雑誌、視聴覚資料を合わせた資料数は、それぞれ約23万、2万、4万、1万件となっている⁽²⁾。中央館は駅前の複合施設である市民交流プラザの1階と2階フロアに位置し、1階は主に絵本や児童書、2階に一般図書、郷土・しらべものコーナー、新聞・雑誌コーナー、インターネット検索コーナー、ティーンズコーナーなどがある。開館時間は、月曜から金曜の10:00~20:00、土日祝日は10:00~18:00である⁽³⁾。

2. 調査の概要

本来であれば2019年度に行うべき調査であったが、新型コロナウイルスが蔓延し始めことから一度断念し、2020年度に昨年度のことを尋ねる形で項目を再構成した上で改めて実施した。調査票は福知山市立図書館が2019年に一般市民を対象に実施した利用者アンケートと大学の図書館からの意見を参考に作成した。回答は選択式で、2020年8月から12月にかけてGoogle Formを介して行い、57名から回答を得た。

質問1から質問7までは回答者の属性、質問8から質問17までは大学の大学の図書館、質問18から質問27までは市立図書館に関する質問であり、回答は全て選択式である。調査協力者は、いずれも福知山公立大学に通う大学学部生である。基本的な属性は、学年別では2年生が38名(67%)、3年生が10名(17%)、4年生が9名(16%)、性別は男性34名(60%)、女性23名(40%)⁽⁴⁾、居住地は市内50名(88%)、市外7名(12%)である。サークル活動への参加有が43名(75%)、無が14名(25%)、アルバイト従事の有無は有44名(79%)、無12名(21%)であった。なお、大学の図書館と市立図書館の回答分析の整合性を図るため、属性の中に含んでいた大学の図書館までの距離や交通手段は「調査結果—大学の図書館の利用に関すること」の「大学の図書館までの距離・交通手段」に移した。

3. 調査結果—大学の図書館の利用に関すること

3.1 大学の図書館までのアクセス

大学(大学の図書館)までの通学時間と交通手段についての質問である。約半数の学生にとって大学の図書館までの距離は10分以内であり、30分以内の学生を合わせると全体の約90%となる。1時間以上かかる遠距離通学者も10%ほど存在するが、交通手段に自転車や徒歩を選択した学生が圧倒的多数を占めることから、多くの学生にとって大学の図書館は地理的にアクセスしやすい場所にあると言えるであろう(図1、図2)。

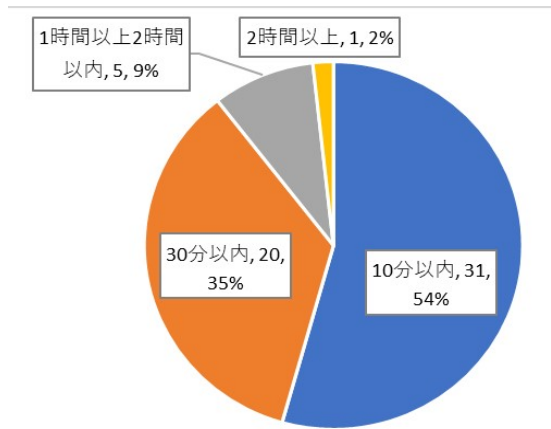


図1 大学の図書館までの距離

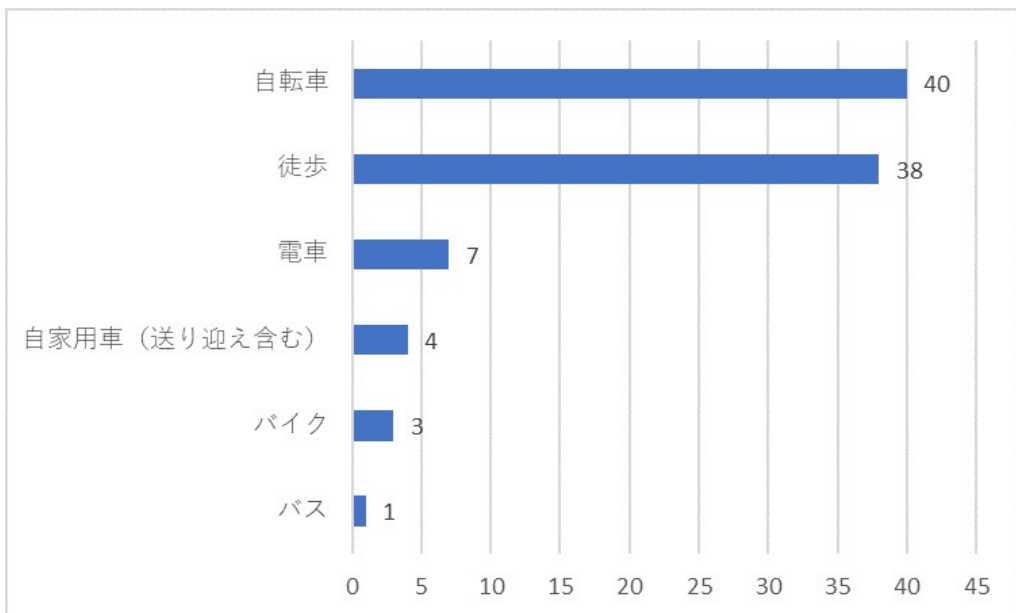


図2 大学の図書館までの交通手段(複数回答可)

3.2 大学の図書館の利用状況

大学の図書館に関しては、これまで利用したことがないという学生はいなかった。週に 1～2 回利用する学生が最も多く全体の 42%、月に 1～2 回が 30%で 7 割以上の学生が毎月何らかの形で大学の図書館を利用していることがわかる(図 3)。滞在時間は 30 分～1 時間が 43%。1 時間～2 時間が 41%ということから、8 割以上が 1 回の滞在につき、30 分から 2 時間を費やしていたようである(図 4)。大学の図書館を利用した時間帯として最も多く挙げられたのが午後(68%)であり(図 5)、曜日別では土曜日の利用者が無く、月曜が極端に少なかった他は、火曜～金曜まで曜日ごとに均等な利用がされていると言えるだろう(図 6)。利用階は 1 階が最多(66%)で、3 階→2 階の順となっている(図 7)。

大学の図書館で一番多く利用していた資料は本(82%)で、ビデオテープ、CD、DVD などオーディオ関係の資料の利用者は居なかった(図 8)。利用目的としては、「自習」39 名、「インターネットパソコン席の利用」26 名、「座席を利用する」22 名がいずれも上位に入った(図 9)。質問票では「その他」としていたが、回答を自由に設定した学生もおり、いずれも 1 名の少数ではあったが、「時間つぶし」「サークルで利用していた」という回答も見られた。逆に「図書館を殆ど利用しなかった」、若しくは「利用したことがない」学生に理由を尋ねる質問では、「大学の図書館利用の必要性を感じない」「自分の読みたい本や資料が大学の図書館にない」に対し複数回答があったが、想定していた「サークル活動で忙しい」「通学に時間がかかる」「大学の図書館の使い方がよくわからない」「授業が多く、大学の図書館を利用する時間がない」という回答は見られなかった。なお、この項目は回答者が少数であったため、図ではなく表としてまとめた(表 1)。

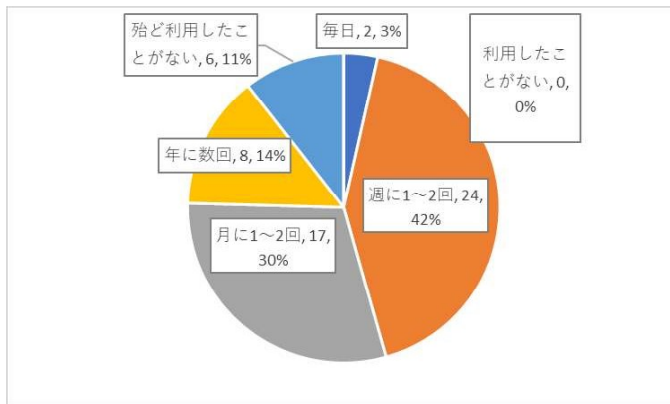


図 3 大学の図書館の利用頻度

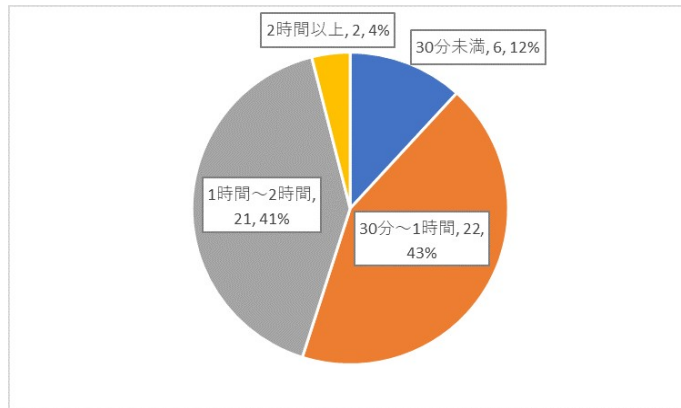


図 4 大学の図書館の滞在時間

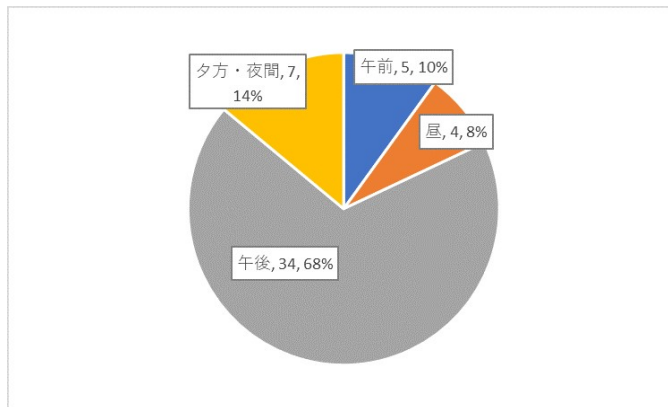


図 5 大学の図書館を利用した時間帯

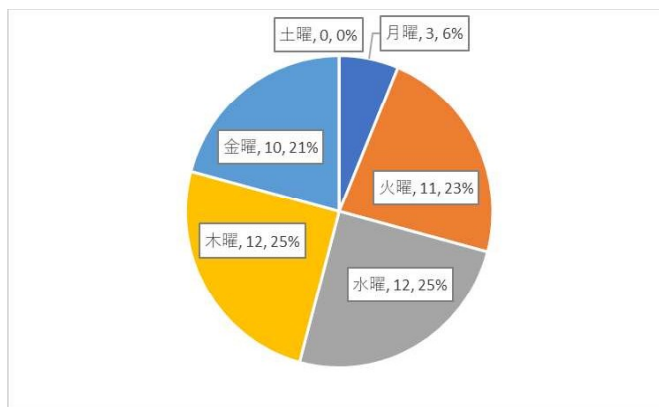


図 6 大学の図書館を利用した曜日

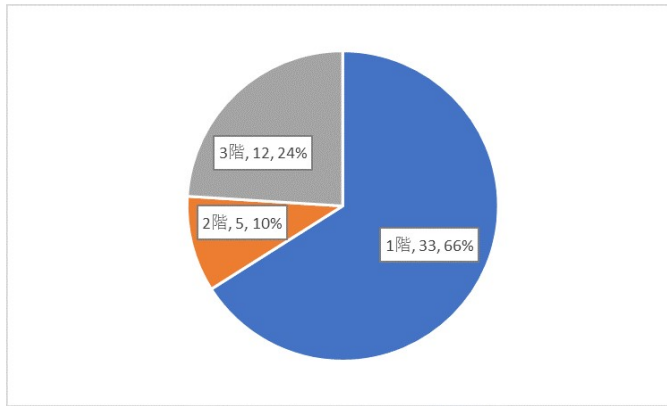


図7 大学の図書館の利用階

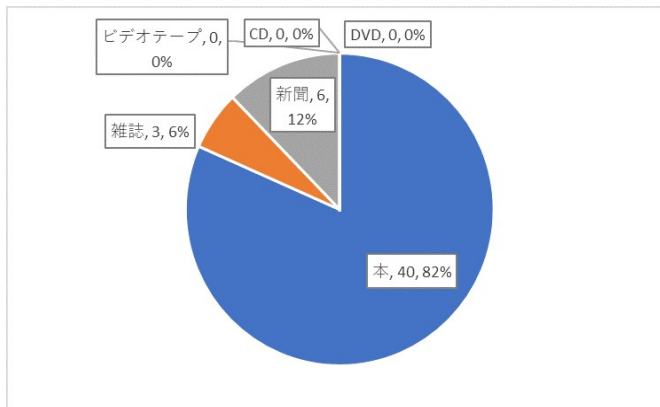


図8 大学の図書館で一番多く利用していた資料

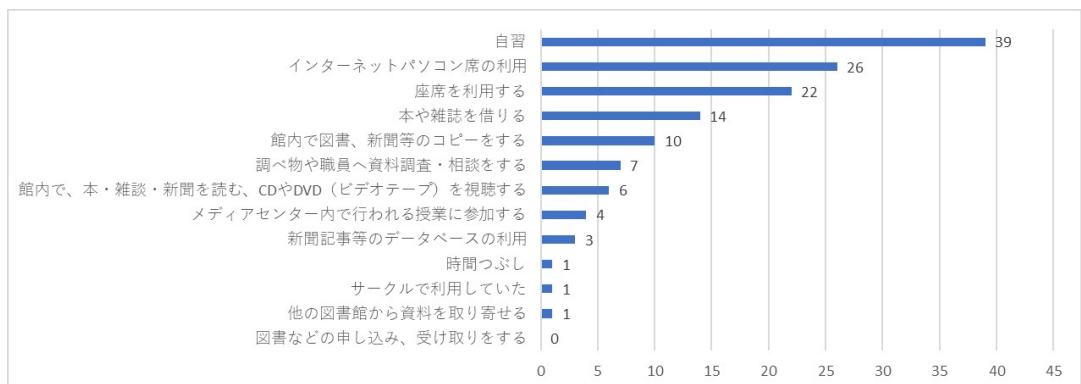


図9 大学の図書館の利用目的（複数回答可）

表 1 大学の図書館を利用しなかった理由（複数回答可）

メディアセンター利用の必要性を感じない	3
自分の読みたい本や資料がメディアセンターにない	2
アルバイトで忙しい	1
メディアセンターにあまり興味がない	1
サークル活動で忙しい	0
通学に時間がかかる	0
メディアセンターの使い方がよくわからない	0
授業が多く、メディアセンターを利用する時間がない	0

3.3 今後大学の図書館へ所蔵を望む資料

今後、大学の図書館に増えることを望む資料形態として一番多く挙げられたのが、和書(18名)であった。2番目には雑誌(一般)が挙げられている。分野別では、言語(18名)が最も多く、文学(16名)、社会科学(16名)、総記(12名)がそれに続く(図 11)。

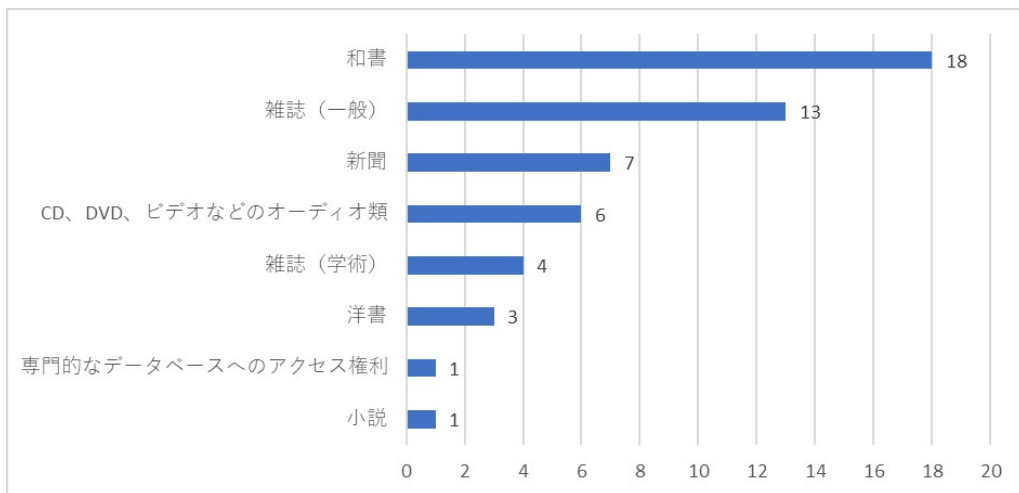


図 10 今後充実を望む資料形態

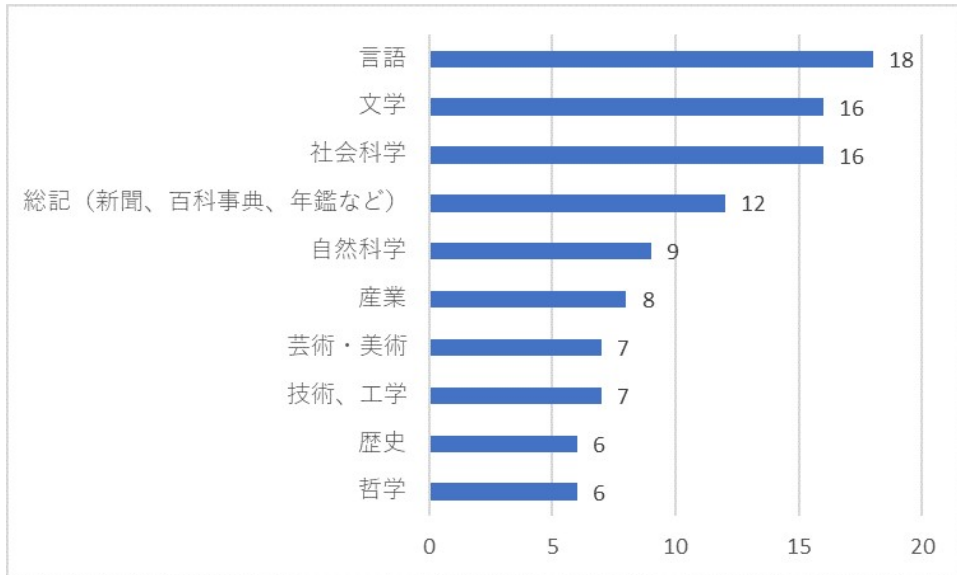


図 11 大学の図書館に今後所蔵を望む本(分野別、複数回答可)

4. 調査結果—市立図書館の利用に関すること

4.1 図書館までのアクセス

市立図書館中央館までの距離は、徒歩 30 分以内が最多で全体の 45%、次いで徒歩 20 分以内が 26%であるが、徒歩 10 分以内の学生は僅か 7%に過ぎない(図 12)。距離からある程度推測はされるが、交通手段は 70%が自転車である(図 13)。

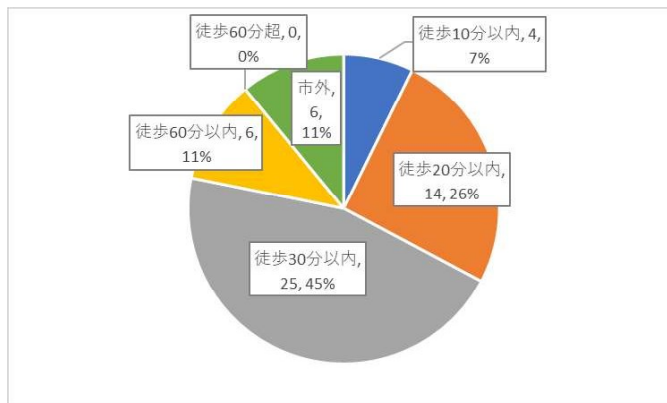


図 12 市立図書館中央館までの距離

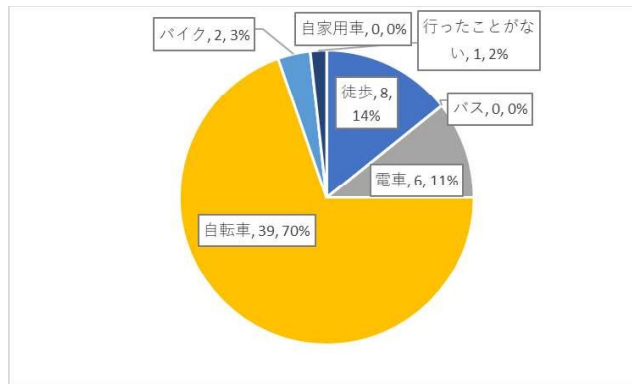


図 13 市立図書館中央館までの交通手段

4.2 市立図書館の利用状況

市立図書館中央館の利用頻度は「年に数回」が最も多く 43%、「利用したことがない」も全体の 32%にのぼる(図 14)。1 回の滞在時間は「1 時間から 2 時間未満」が最も多く全体の 37%を占めるが、「30 分以上 1 時間未満」(29%)や 2 時間以上(18%)、30 分未満(16%)と、それ以外はばらつきが見られる(図 15)。利用時間帯は平日の午後と土日祝日で全体の 90%以上を占め、平日の午前中の利用はなかった(図 16)。利用目的で最多は「本を借りる」(22 名)ことであり、「座席を利用する」「館内で、本・雑誌・新聞を読む」も上位の回答として挙げた。こちらについても学生が自由に設定した「夏涼みに」「勉強をする」「自習をする」などの回答が見られたため、勉強や自習に関する回答は「自習・勉強」としてまとめた。なお、「館内で図書や新聞等のコピーをする」「市外の図書館から資料を取り寄せる」「CD や DVD を借りる」を選択した学生は居なかった(図 17)。市立図書館中央館を利用しない理由としては「市立図書館が家から遠い」「市立図書館が買い物や通学、バイトなどの帰り道にない」といういずれも地理的な理由が上位に挙げられている。次に理由とされたのが「市立図書館の使い方がわからない」「市立図書館に自分が読みたい本や聴きたい音楽などの資料がない」という図書館に直接かかわる理由が挙げられている(図 18)。

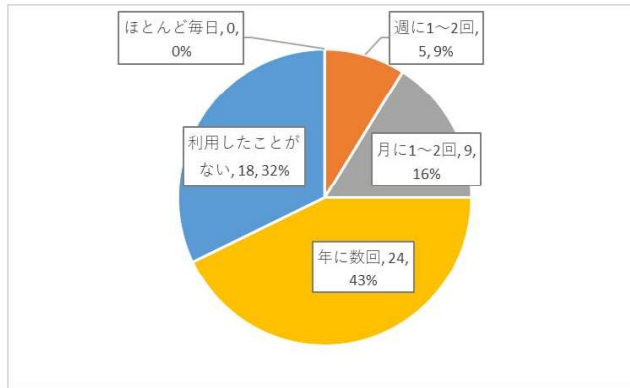


図 14 市立図書館中央館の利用頻度

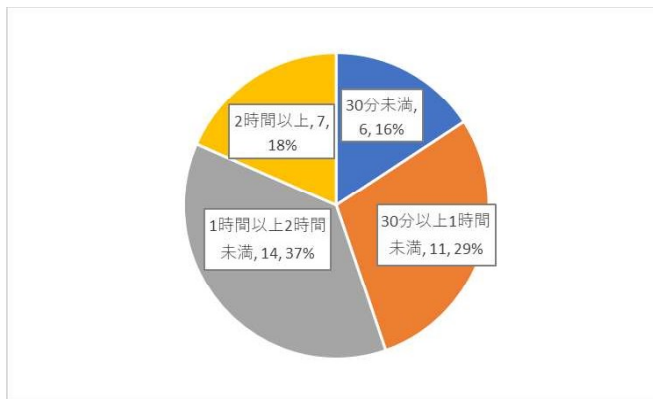


図 15 市立図書館中央館の滞在時間

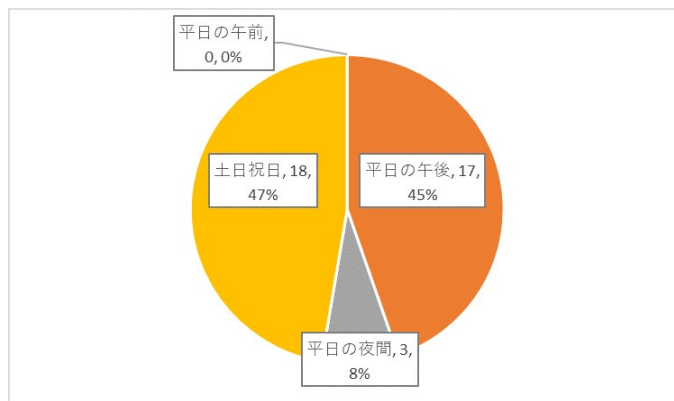


図 16 市立図書館中央館の利用時間帯

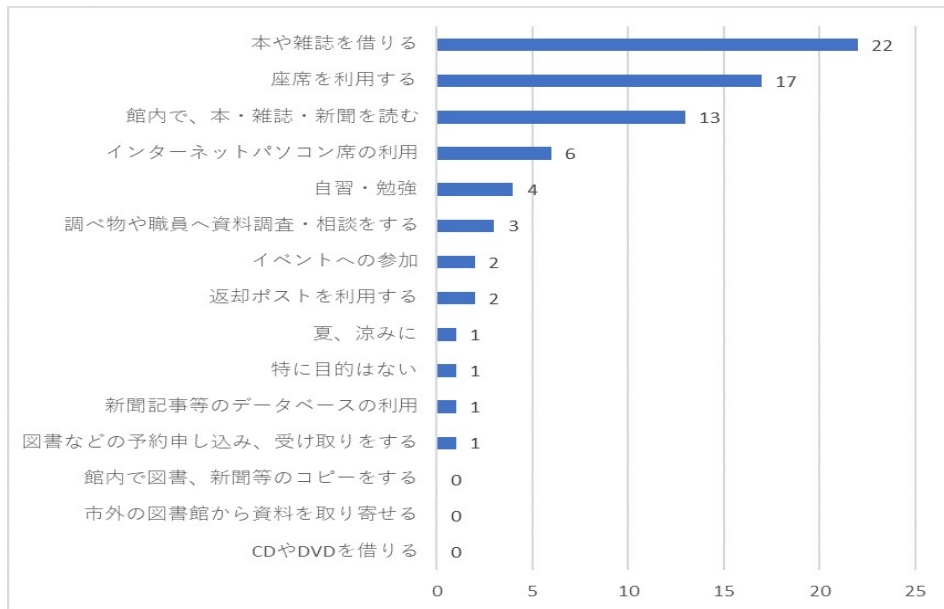


図 17 市立図書館中央館の利用目的（複数回答可）

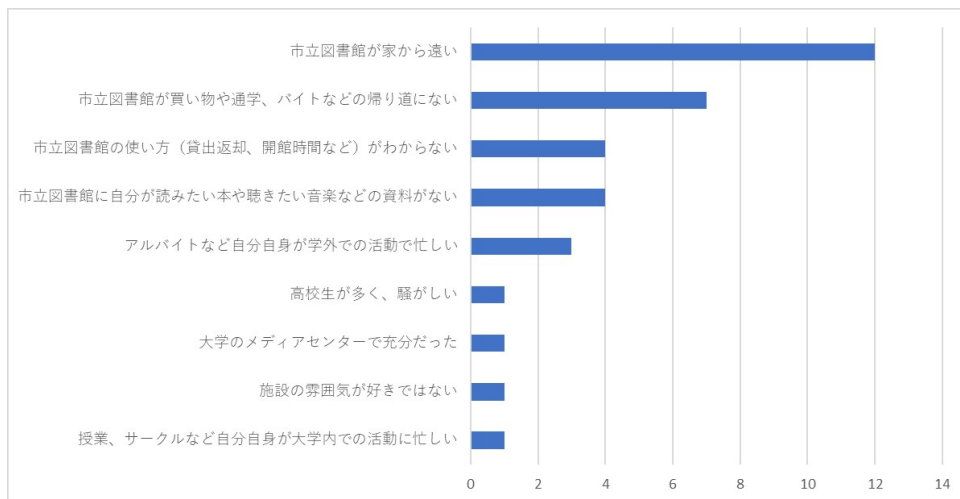


図 18 市立図書館中央館を利用しなかった理由（複数回答可）

4.3 今後、市立図書館に求められる資料の種類

今後、市立図書館に所蔵を望む分類別の形態として最も多く挙げられたのは「和書」、次いで僅差で「雑誌(一般)」であった。選択肢にはなかった「ビジネス書」を自ら記入した学生も1名いたが、

市立図書館に「雑誌(学術)」を望む回答が一定数あったことは注目に値する(図 19)。分野別では、文学(25名)が圧倒的に多い。大学の図書館と同様、いずれの分野にも一定数の回答があったことから、選択肢として設定した全ての分野において資料の拡充が望まれていると捉えることもできる(図 20)。なお、質問 27 の a, b, c として設定した大江分館、三和分館、夜久野分館の利用に関しては、いずれも「利用したことがない」という回答であった。

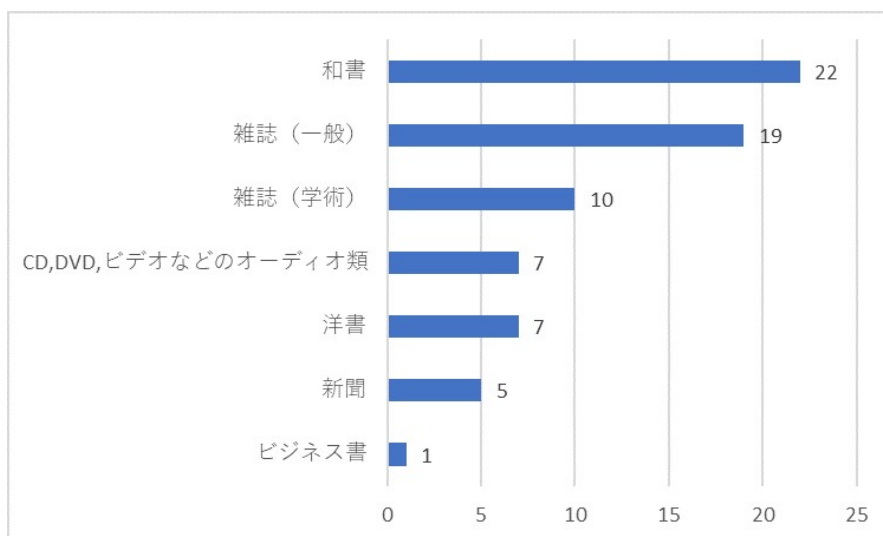


図 19 市立図書館に今後所蔵を望む資料の形態(複数回答可)

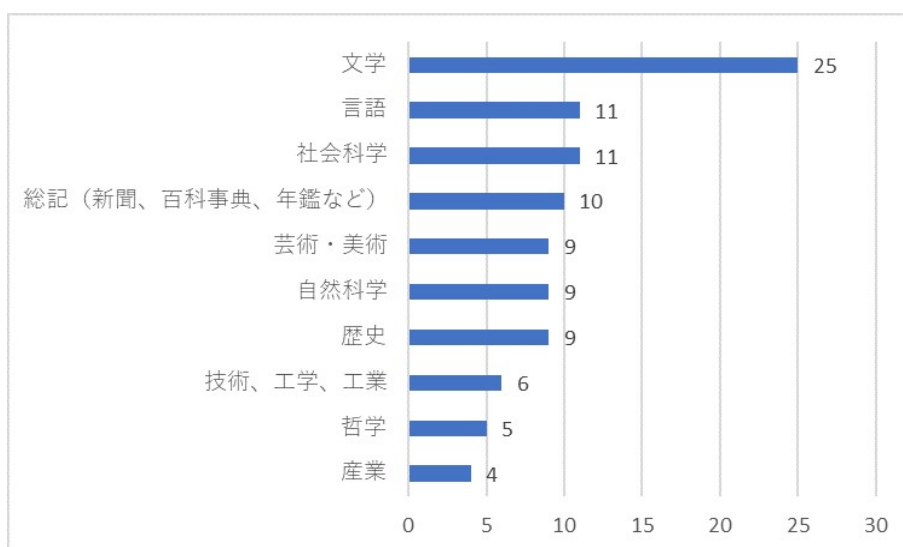


図 20 市立図書館に今後所蔵を望む本(分野別、複数回答可)

5. まとめ

本稿では、学生の大学の図書館と市立図書館までの距離や交通手段、両施設の利用状況、それぞれに今後所蔵を望む資料に関する調査結果について記した。調査結果から得た内容に基づいて考察すると、次の点を指摘することができる。

第 1 に、大学図書館の利用と市立図書館の利用頻度の差には地理的条件が関わっているのではないかとのことである。つまり、大学の大学の図書館は近いが、市立図書館は遠いので足が遠のいてしまっている可能性がある。特に、大学図書館と中央館における使用交通機関を比較(図 2 と図 3 の比較)すると、交通機関別の χ^2 検定の結果、全ての交通機関において p 値が 1%未満となり、使用交通機関に差が見られる。使用交通機関の差は、大学の図書館利用者の徒歩比率が高いことによる。したがって、大学生は、徒歩による移動が多く、大学から市立図書館までは徒歩約 30 分であることを考えると、徒歩による移動が市立図書館利用の制限される理由となっており、それが「市立図書館が家から遠い」という図 18 の結果にも表れていると思われる。

第 2 に、いずれの施設においても資料の拡充が望まれていることである。大学の図書館、市立図書館共に「今後所蔵を望む資料形態」「今後所蔵を望む本(分野別)」には、いずれも一定数の回答があり、ゼロとなった項目は一つも見られなかった。また、「今後所蔵を望む本(分野別)」では、グラフの上で差が見られる他、分野ごとの χ^2 検定の結果、いずれの p 値も 1%未満となり図書館による差が見られた。したがって、図書館の傾向に合わせた資料の拡充が求められていることが分かる。

第 3 に、市立図書館と大学の大学の図書館の利用や所蔵を望む資料に見られる「位置づけ」の違いである。利用時間に関して言えば、大学の図書館が平日であるのに対し、市立図書館を利用する学生の半数近くにあたる 47%が「土日祝日」と回答している。また、利用目的に関しても大学図書館は「自習」が多く、市立図書館は「本や雑誌を借りる」が最上位に来ている。所蔵を望む資料も大学の図書館は「言語」「文学」「社会科学」が僅差で上位に挙げられているのに対し、市立図書館は「文学」が他に追随を許さず最も多い回答となった。これらの違いを生かし、市立図書館と大学の図書館は、施設面、資料面、時間的な面で役割分担をしながら歩んでいけるのではないかと考えられる。双方の強みを生かして、大学生が利用しやすい施設づくりを進めていくだけでなく、より市民に開かれた大学の大学の図書館についても検討していく必要があるだろう。

注

(1) 福知山公立大学, メディアセンターについて,

https://www.fukuchiyama.ac.jp/associated_organization/media_center/media_center01/

2021年1月29日閲覧

(2) 福知山市立図書館, 図書館年報 平成30年度(2018年度), p.5, p.8,

https://www.lics-saas.nexs-service.jp/city-fukuchiyama/use/images/30_nenpo.pdf

2021年1月29日閲覧

(3) 福知山市立図書館,施設案内,中央館

<https://www.lics-saas.nexs-service.jp/city-fukuchiyama/use/about/chuo.html>

2021年1月29日閲覧

(4) 性別を問う質問は適切でなかったが、回答項目に当初入れており、回答もあったため、そのまま掲載した。